

語感でわかるコロケーション

やさしい
英単語
の
相性図鑑

すずき ひろし [著]

制作協力：英学塾

イラスト：すずき ひろし

イラスト製作協力：スタジオ・スチムエンジン

ダウンロードサービスの使い方

本書の英例文と訳文データの一部をインターネットからダウンロードし、スマートフォンアプリ「WordHolic（ワードホリック）」へ取り込むことで、学習にご活用いただくことができます。

WordHolicの特徴

- ・無料で好きなだけオリジナルの単語帳、フラッシュカードを作成して学習に活用できます
- ・読み上げ機能を使い、リスニング練習や音声のみでの学習が可能です（※ここでいう音声は、録音された音声ではなく、文字データを機械が読み上げる機械音声です）
- ・スライドショー（自動カードめくり）機能で「ながら学習」が可能です
- ・筆記やディクテーションなど、いろいろな形式の暗記テスト（クイズ）で学習を支援してくれます

WordHolicの使い方と、ダウンロードサービスの利用方法については、本書のサポートページをご確認ください。

本書のサポートページ

<https://www.socym.co.jp/book/1294>

スマートフォンアプリ「WordHolic」の入手

iOS (iPhone) 用



Android用



iOS (iPhone) 用

<https://itunes.apple.com/jp/app/id1434981148>

Android用

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.langholic.wordholic>

はじめに

言いたいことをもっと言えるようにしたい

英語で言いたいことが言えないという悩みは、多くの学習者が持つことだと思います。それを克服するために学習をしているとも言えます。

言いたいことをもっと言えるようになるために何が必要でしょうか。

①「語彙を増やすこと」

これが必要なことはみなさん実感することだと思うのですが、それ以外に

②「すでに知っている単語で言えることの範囲を増やすこと」

それから

③「知っている単語の組み合わせで言えることを増やすこと」

という方法があります。

本書が目指すことは、この②と③についての強化です。

簡単な単語をフル活用できていない現状

ネイティブスピーカーが話している文章を書き出してみると、意外にも中学1年で学ぶような平易な単語が多いことに気づくと思います。使われているのはmakeやtakeやupなどの平易な単語が多いのに、文の意味が理解できないことがあります。または受験で単語暗記を中心に勉強してきた人にとっては、平易な単語を使って、たとえばput offと言われるよりもいっそpostpone（延期する）と言われた方がピンと来たりすることが起きます。知っている簡単な単語がうまく使えていないのです。

「一語一訳」の訳語で考えないこと

つまり私たちは、平易な単語をよく理解せず、よく使いこなせないまま、より難しい単語の暗記を続けてきていて、それが災いしている面があるのです。

たくさんの英語に触れていると、「ああ、こういうときにも have って使うんだ」などと気づくことがあります。「have は『持つ』という意味だ」ととらえているだけだと理解できなかった気づきです。「じゃあ have を英和辞典で確認してみよう」と思って調べてみると、ずらりと訳語が並び、うんざりしてしまうことになってしまいます。「結局 have ってどんな意味なのか」が理解できないままになってしまいます。でも、逆に考えると、have を使いこなせれば、言えることが広がるということにもなりそうです。

動詞の例を挙げましたが形容詞も同様です。たとえば「こういうことも fresh と形容できるんだ」などと気づきます。fresh は一般には「新鮮な」という訳語でとらえています。つまり「ピチピチ」の感覚です。ところが fresh coffee（淹れたてのコーヒー）や fresh toast（焼きたてのトースト）という言い方に出会ったときに「新鮮な」という訳語ではとらえられないことに気づきます。つまり「ほかほか」「ホヤホヤ」の意味もあるということです。形容詞の fresh には「できたばかりの」の意味があるのです。fresh という聞きなれた簡単な形容詞さえ使えていないことに気づくのです。英単語をひとつの代表的な訳語ではなく、その語が持つ本来の意味でつかむことができれば、言えることが広がるのです。

イメージとしてとらえること

本書の見出し語になっている語はすべて中学の最初の方で出てくる単語です。そのわりに多くの人がその語の本当の意味を理解しきっていない単語です。その意味を知ろうとすれば、英和辞典を細かく読めば理解できるかもしれませんが。でも、そうすることが苦手な人は、この本を見て理解しようとしてみてください。文字で理解することが苦手な人は、イラストで理解する方法を試してみてください。英語の用例とイラストを見比べることで理解する方法を試してみてください。

「組み合わせ」の意味

「食べ合わせ」が悪いとお腹をこわします。日本語で「お腹を下す」とも言いますが「お腹をつぶす」とは言いません。「お腹」には「こわす」や「下す」が組み合わせとして相性が良いのです。単語同士の組み合わせが悪いと、ことばは不自然で、ときにうまく機能しません。

haveは「持つ」、freshは「新鮮な」というひとつの英単語にひとつの訳語で考えていると、いよいよこの相性の良い組み合わせがわからなくなってきました。

たとえば日本語で、「靴を着る」とは言いません。「電話が死んでいる」とも「重い雲」とも言いません。でも英語では、wear shoes（靴をはく）、The telephone is dead.（電話が通じない）、a heavy cloud（厚い雲）といいます。こういうものが相性の良い英単語の「組み合わせ」です。

このように、日本語でも英語でも、語と語の結びつきの相性の良さというものがあ、それをコロケーション（collocation、連語）と呼びます。

あるとき、Those flowers died. と、ネイティブスピーカーが言ったとします。「花を『死ぬ』という比喩で表現するなんてステキ」と心をときめさせるのは早計です。dieを「死ぬ」というひとつの訳語でなく、「動植物や機械などの働きが途絶えること」ととらえれば、「枯れる」という訳語があることが冷静に理解できるのです。辞書を見るとdieにはほかにも「消える」「止まる」などという訳語があることがわかります。

本来の語の意味を訳語でなくイメージでとらえることが、その語を使いこなせることに通じ、さらには英語らしい「組み合わせ」を理解することにつながります。

この本で扱う「組み合わせ」は、「動詞と目的語の組み合わせ」や「形容詞と名詞」の組み合わせが主ですが、語のイメージを理解する目的でそれ以外の使用方法についても記載しています。

熟語という組み合わせ

先ほどはput offの例を挙げましたが、学習者にとって句動詞（220ページ参照）などの熟語（成句）は大きな悩みの種です。知っている単語の組み合わせなのに、あたかも新しい単語を覚えるように、熟語を覚えなければならないと感じます。ところが、各々の語のコアの意味をきちんと理解できていれば、熟語の意味をとらえることも意外に楽になります。

知っている単語を使いこなす。本書が目指すところはそこです。「こんな単語は知っている」とばかにせずに、目を通していただければと思います。

掲載イラストについて

イラストは著者である私、すずきが描いています。自分自身が学習する中で前置詞のイメージや単語のイメージなどをイラスト化しているうちにいつしかそれが特技となって、これまで「似ている英単語使い分けBOOK」、「前置詞使い分けBOOK」（どちらも共著、ベレ出版）や「英単語の語源図鑑」「英熟語図鑑」（かんき出版、共著）、「中学英語の語源事典」（PHP文庫、共著）などでイラスト化をしてきました。一般の学習書ではイラストは「挿絵」ですが、私は「図解」の機能を重視して描いています。ただの挿絵として見過ごさずに、ぜひ理解を助ける「図解」の機能を十分に試してみてください。

この本の構成

3章の構成

動詞： 他動詞では動詞と目的語の組み合わせ。自動詞では主語（動作主）と動詞の組み合わせについて書いています。

形容詞： 形容詞とそれが修飾する名詞の組み合わせについて主に書いています。一部“The line is busy.”のように主語を形容詞で説明するような文章（叙述用法といいます）も挙げています。

前置詞・副詞： 場所や時間など、前置詞の対象となる語と前置詞の組み合わせや、動詞と相性の良い前置詞・副詞の組み合わせなどを主に書いています。一部形容詞＋前置詞の組み合わせも挙げています。

違いがわかる

似ている単語や反意語を並べて比較ができるようにしました。できる限り、実感しやすいような例を挙げつつ、代表的なまたは象徴的な例も挙げるように心がけました。

並べてわかる

ほとんどをページ見開きにして使えるようにしており、典型的なページ構成としては、左ページにはその語のコアの意味と代表的な訳語でとらえているようなイメージや組み合わせを並べ、右ページにはそれ以外を並べました。

英和辞典の中には、単語の大きな語義ごとに分けて並べているものが多いですが、この本でも語義ごとにまとめてイラスト化しているととらえてください。これらはイメージですので、人により解釈は多少変わるかとは思いますが、辞書によっても解釈は少し変わります。最終的にはご自身でイメージを固めていただくのが良いかと思います。

また、最近では頻繁に辞書を引く学習者があまりいないようですが、教材としては辞書が最強だと私は思っています。本書はわかりやすいものを並べるようにしているので、より多くの例や詳しい説明については、ぜひ辞書を活用するようにしてください。

「あたりまえ」から「意外」まで

掲載している「組み合わせ」や例には「あたりまえ」または「聞きなれた」ようなものもたくさん含んでいます。「そんなの知っている」と思われるかと思いますが、その「あたりまえ」こそが基本的な語義を表すものであるため、それらもあえて掲載しています。それに加えて重要なのが「日本語の感覚と違う」というものや「意外だ」というもので、それらに注目してみてください。

眺めてわかる

多少、数が多いですが、用例を並べてみればその「感覚」がつかめるのではないかと思います。「端から全部を覚える」というよりも、イメージごとに並べた組み合わせ例を眺めながら、理解したり感じたりしてもらえればと思います。

第一編 基本動詞 動詞と目的語のコロケーション	する
do 「行為」一般：何かを「する」の一般語 回 行う 回 をする、を処理する、を果たす コアの意味 「する」を意味するdoですが、playやmakeなどより、その行為の目的が薄いので、目的語となる語が具体的な行為を表す「髪を切る」「髪を洗う」など日本語でも名詞に「する」をしますがそれがそれと似た役割です。 概要説明 (It, thatなどの指示詞や漠然とした対象を指して) する What did you do? あなたは何をした? Don't do that. そのようなことはしないで Just do it. いいからやってみなよ I did something stupid. ばかことをした Do what you want. したいことをしなさい What do you do? 仕事は何をしています よく知ってるイメージ 類語との比較、注意など	具体的な行為をする、日常的行為をする、処理をする do exercise / gymnastics 運動 / 体操をする do the cleaning / the shopping 掃除 / 買い物をする do the laundry / the dishes 洗濯 / 皿洗いを do the gardening / the flowers 庭いじりをする / 花をいける do research / business 調査 / 商売 I did it 物騒 / 悪 けっこう意外なイメージ 体の一部などを整える I do my hair. 髪を整える I do my makeup. 化粧する I do my nails. マニキュアをする 果たす、遂行する Do your best. 最善を尽くせ Do your duty. 義務を果たせ Do your work. 仕事をしなさい You did a good job. よくやった 成句 I have nothing to do with the accident. 私はその事故とは無関係だ He'll do away with the policy. 彼は I can do without lunch. 昼食なしで済 成句など

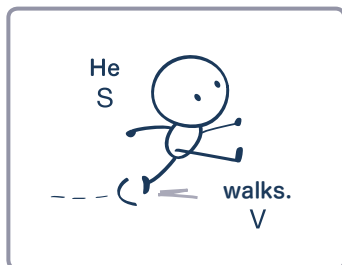
記号 (S、V、O、C) の説明

この本は文法に焦点を置いた本ではないので詳しい説明はしませんが、文章の構成要素としてのS、V、O、Cの記号が出てくるのでその説明だけしておきます。

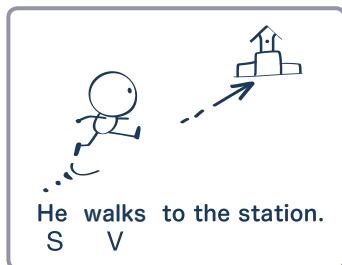
Sは「主語」を表します。

Vは文の中での働きとしての「動詞」を表します。

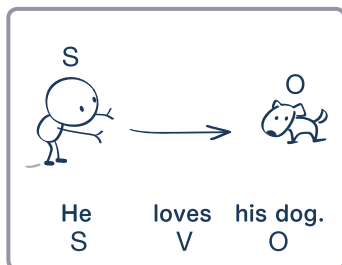
たとえば、She jumps. (彼女はジャンプする) や He walks. (彼は歩く) のようにSとVだけで成り立つ文があり、こういう場合の動詞を「自らだけで成り立つ動詞」つまり「自動詞」と呼びます。これで作られるのがSVの文の形です。



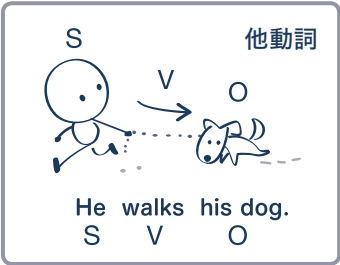
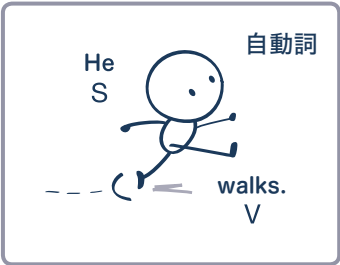
このSVの形には、He walks fast. (彼は速く歩く) の副詞fastや、He walks to the station. (彼は駅まで歩く) の副詞句to the stationのように副詞や副詞句がつく場合があります。



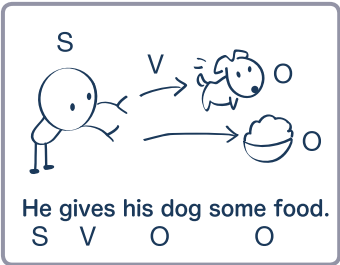
たとえばHe loves his dog. (彼は彼の犬を愛する) の場合は動詞のあとにhis dogという目的語(動作・行為を受けるもの)がついて成り立つ文で、このような場合の動詞を「他があって成り立つ動詞」つまり「他動詞」と呼びます。この「目的語」のことをOで表します。文の形はSVOです。



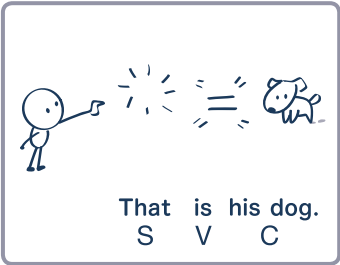
動詞の中には自動詞としても働き、他動詞としても働くものもあります。たとえば、He walks his dog. (彼は犬を散歩させる) のようにwalkは他動詞にもなり、自動詞とは違う意味になります。もちろん自動詞と同様に、副詞や副詞句がつく場合があります。



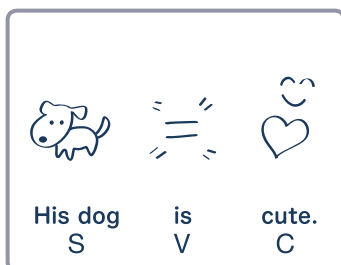
また、He gives his dog some food. (彼は犬に食べ物をあげる) のように目的語をふたつ取ることができる動詞もあります。この文の形をSVOOと呼びます。



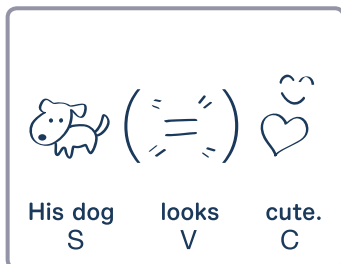
Cは「補語」を表し、典型的には主語Sと動詞Vのあとについて、SVCという文を構成します。この場合のSはもちろん「主語」で、前のSVやSVOの場合と同様に文章の「主役」ではありますが、SVやSVOの場合にはSが「動作主」であったのに対して、このSVCの場合には、Sは動作主というよりもCによって説明される「説明対象」です。SがCに何かを働きかけるというのではなく、S自体がCで説明されているのです。典型的にはbe動詞がVとして使われ、たとえば That is his



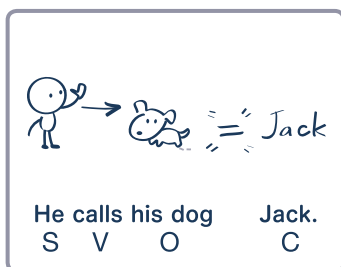
dog. (あれは彼の犬です) や His dog is cute. (彼の犬は可愛い) のように使われます。前者は名詞句の his dog が補語であり、後者はcuteという形容詞が補語になっています。



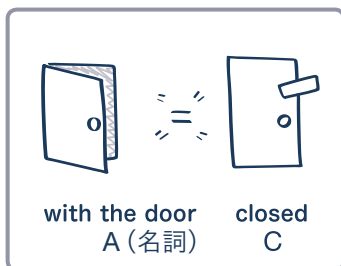
このSVCの形の中には、be動詞だけでなく、His dog looks cute. (彼の犬は可愛く見える) のように一般動詞が使われる場合もあります。このような場合は「自動詞」に分類され、特に「不完全自動詞」と呼ばれます (18ページ参照)。



補語は主語を説明するだけではありません。He calls his dog Jack. (彼は犬をJackと呼ぶ) のように、目的語his dogをJackという補語で説明するように使え、こういう形をSVOCと呼びます。



文ではありませんが句として、たとえばwith the door closed (ドアが閉じた状態で) という句はclosedという補語がthe doorという名詞を説明している形です。このような補語の使い方もあります。辞書を引いたときに「補語」または「C」と表現されているので、「補語」という用語を理解しておくで辞書から引き出せる情報が大幅に増えます。



目次

ダウンロードサービスの使い方	2
はじめに	3
この本の構成	7
記号 (S、V、O、C) の説明	9

第一章 「基本動詞」 16

基本動詞について	17
この章で説明する相性	18

「する」って何ていうの? 19

do	20	make ⁽¹⁾	26
play	22	have ⁽¹⁾	28
give ⁽¹⁾	24		

One-up! その他の「する」 30

「作る」って何ていうの? 31

make ⁽²⁾	32	build	34
---------------------	----	-------	----

One-up! その他の「作る」 36

「持つ」「保つ」って何ていうの? 39

have ⁽²⁾	40	keep	44
hold	42	carry ⁽¹⁾	46

One-up! その他の「持つ」 48

「運ぶ」「持って行く」「連れて行く」「持って来る」 って何ていうの? 49

carry ⁽²⁾	50	take ⁽¹⁾	54
bring	52		

One-up! その他の「運ぶ」「持って行く」 55

「取る」「得る」「つかむ」「与える」って何ていうの? 57

get (1)	58	gain	65
take (2)	62	catch	66

One-up! その他の「得る」「取る」「つかむ」 68

give (2)	70
----------------	----

One-up! その他の「与える」 74

「行く」「来る」って何ていうの? 75

come (1) 固	76	leave	80
go (1) 固	78		

One-up! その他の「行く」 82

「話す」「呼ぶ」って何ていうの? 83

speak	84	say	90
talk 固	86	call	92
tell	88		

One-up! その他の「話す」「言う」 94

「見る」「聞く」って何ていうの? 95

see	96	look 固	98
watch	97		

One-up! その他の「見る」 99

hear	100	listen 固	101
------------	-----	----------------	-----

「なる」って何ていうの? 103

become	104	turn	108
get (2)	105	fall	109
go (2)	106	grow	110
come (2)	107		

「動く」「動かす」「働く」って何ていうの? 111

move	112	run (1)	116
work	114	run (2)	118

One-up! その他の「動く」 120

「なくす」「逃がす」「失う」って何ていうの？	121
------------------------	-----

miss	122	lose	124
------	-----	------	-----

One-up! その他の「なくす」「なくなる」	126
--------------------------------	-----

「置く」って何ていうの？	127
--------------	-----

put	128	set	130
-----	-----	-----	-----

One-up! その他の「置く」	132
-------------------------	-----

「学ぶ」「知る」って何ていうの？	133
------------------	-----

study	134	learn (2)	136
learn (1)	135	know	137

One-up! その他の「学ぶ」「知る」	138
-----------------------------	-----

「開く」「閉める」って何ていうの？	139
-------------------	-----

open	140	close	142
------	-----	-------	-----

One-up! その他の「開く」「閉める」	144
------------------------------	-----

その他の動詞	145
--------	-----

break	146	die	150
wear	148		

第二章 「形容詞」 152

形容詞について	153
---------	-----

strong	154	short	174
weak	156	deep	178
heavy	158	large	180
thick	160	small	184
thin	162	wide	186
light	166	easy	188
dark	167	difficult	190
high	168	hard	192
low	170	tight	194
tall	172	fast	196

quick	197
sharp	198
busy	200
empty	202

good	206
rich	208
poor	210
fresh	212

第三章「前置詞・副詞」..... 216

前置詞・副詞について	217
第三章「前置詞・副詞」の内容	219
句動詞って何?	220

in	224
at	228
on	230
about	240
along	242
by	244
for	250
from	254
into	256
of	258

off	262
over	264
through	266
to	268
under	276
with	278
up	286
down	290
out	292
out of	294

おわりに	295
------------	-----

第一章

基本動詞





基本動詞について

「～をする」ってdo？

でも、playも「する」だし、「パーティーをする」ってhave a partyだって聞いたぞ…。

結局「する」って英語でなんて言うんだろう？

初心者の方はそんな疑問を持たれていると思います。

辞書を調べてみると、doやgiveにはたくさんの意味が載っています。getやtakeやputも同様です。このような基本語でさえ、理解するのは意外と難しいものです。

このような動詞と、前置詞（at、aboutなど）や副詞（outやupなど）が組み合わせられると、思いもよらぬ意味ができあがったりします。こういうことが学習者の大きな悩みなのだと思います。

でも裏返せば、基本動詞の本当の意味をとらえられれば、けっこうなことが理解できるかもしれないという期待も持てると思います。

この章では、基本動詞の意味するイメージを感じてみて、同時に相性のよい目的語や前置詞/副詞を並べてみることで、基本動詞の「ところ」をつかんで理解ができるようにしていこうと思います。

この章で説明する相性

他動詞と目的語との相性

他動詞というのは、主語（動作するもの）と目的語（動作を受けるもの）が存在して成り立つ動詞です。他動詞の使い方としては相性の良い目的語の例を挙げています。



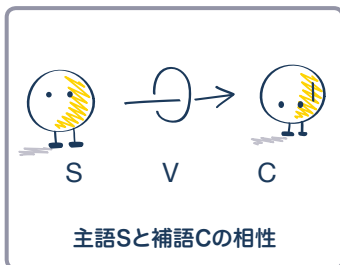
自動詞と主語との相性

自動詞というのは、主語（動作するもの）だけで成り立ち、目的語の存在がない動詞です。そのような動詞の場合には主語と動詞の相性や動詞と副詞あるいは動詞と前置詞の相性を説明しています。



自動詞の主語と補語との相性

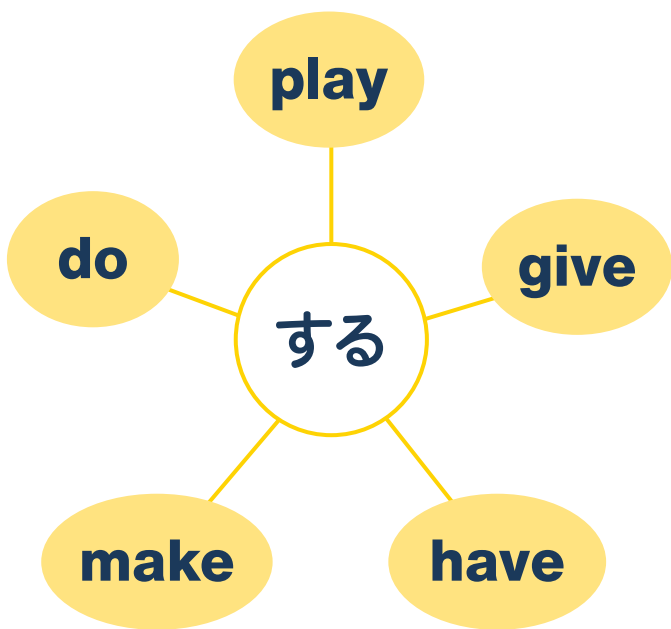
自動詞の中には「不完全自動詞」と呼ばれるものがあり、主語が補語に説明されている形を作ります。そのような動詞の場合には主語と補語の相性を主に説明しています。この本の中では具体的には主に「～になる」の部分の説明です。



ひとつの動詞が、他動詞にも自動詞にもなるものがありますが、その場合には両方の場合の相性の説明しています（特に必要なところには **自** **他** という記号をつけています）。

「する」って何ていうの？

野球を「する」とパーティーを「する」は、英語では別の動詞を使います。なんとなくそれはわかっているけど、使い分けはなかなか難しいものです。ここではいろいろな「する」を説明します。各語のイメージを理解すれば、それほど難しくはなりません。



do

「行為」一般：何かを「する」の一般語

〔自〕 行う 〔他〕 をする、を処理する、を果たす



「する」を意味するdoですが、playやmakeなどよりもdo自体の意味は薄いので、目的語となる語が具体的な行為を表すときに使われます。「お茶する」「整髪する」など日本語でも名詞に「する」をつけると動作や行為を表しますがそれと似た役割です。

(it, thatなどの指示詞や漠然とした対象を指して) **する**

What did you do?

あなたは何をしました？

Don't do that.

そのようなことはしないで

Just do it.

いいからやってみなよ

I did something stupid.

ばかなことをした

Do what you want.

したいことをしなさい

What do you do for a living?

仕事は何をしていますか？

具体的な行為をする、日常的行為をする、処理をする

do exercise / gymnastics

運動 / 体操をする

do the cleaning / the shopping

掃除 / 買い物をする

do the laundry / the dishes

洗濯 / 皿洗いをする

do the gardening / the flowers

庭いじりをする / 花をいける

do research / business

調査 / 事業をする

I did my homework / my paperwork.

宿題 / 書類仕事をした



体の一部などを整える

I do my hair.

髪を整える

I do my makeup.

化粧する

I do my nails.

マニキュアをする



果たす、遂行する

Do your best.

最善を尽くせ

Do your duty.

義務を果たせ

Do your work.

仕事をしなさい

You did a good job.

よくやった



成句

I have nothing to do with the accident.

私はその事故とは無関係だ

He'll do away with the policy. 彼はその政策を廃止するだろう

I can do without lunch. 昼食なしで済ませられる

play

運動する、気晴らしや娯楽として遊ぶ、戯れる

〔自〕遊ぶ、試合する、演奏する 〔他〕を行う、を演じる



勉強や仕事をする work と対比される play は、「気晴らし」「娯楽」が原義です。ですから気晴らしのスポーツや楽器や遊びが play の目的語になり、役を演じたり、役割をする（果たす）場合にも play が使われます。

競技をする、ゲームをする

I play sports.

スポーツをする

I play football / baseball.

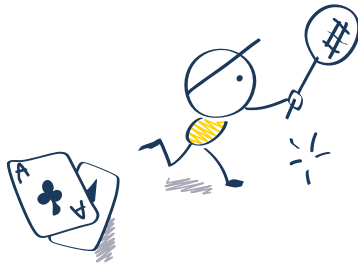
サッカー / 野球をする

I play video games.

テレビゲームをする

We play cards.

私たちはトランプをする



● 球技などは play で表されますが、同じスポーツの中でも格闘技は「娯楽」とは違って、practice または do で表されます。

I practice karate / judo / wrestling.

私は空手 / 柔道 / レスリングをする



楽器を演奏する、CDなどをかける

I play the guitar / the violin.

ギター / バイオリンを弾く

I play music.

音楽を演奏する

I play a DVD / a CD.

DVD / CD をかける



役割をする (演じる、果たす)

He played Romeo.

彼はロミオを演じた

I'll play host to a conference.

私が会議の主催者になるよ

He played an important role.

彼は重要な役割を演じた



ごっこ遊びをする

The boy played doctor.

少年はお医者さんごっこをした

They often play house / store.

彼らはよくままごと / お店屋さんごっこをする

They play hide-and-seek.

彼らはかくれんぼをする



成句

They played a joke on me. 彼らは私を茶化した

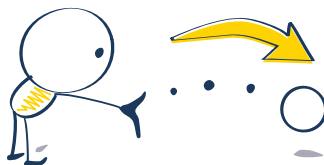
He played a trick on me. 彼は私をからかった

She always plays with her hair. いつも彼女は髪をいじる

give (1)

自分から何かを出す、放つ、与える、渡す

【自】— 【他】 与える、を渡す、を伝える、をする



「与える」が原義のgiveですが、他人に与えたり自分から放出する行為や生理現象が日本語で言う「する」の意味になります。会を催したり、講義などをする（与える）場合もgiveで表せます。

放出するものや動作が目的語になりますが、与える相手も同時に目的になることができ、その場合、たとえばGive me a kiss.のように「誰に何を」の形になります。

働きかける、授ける、行う

Give me a kiss / a hug.

キス/ハグして

She gave me a smile.

彼女は私に微笑んだ

Let me give you some help.

手伝わせてください

They gave a big welcome.

彼らは大歓迎した

I'll give you a ride.

車に乗せていくよ

Give me a break.

もうやめてくれ



「与える」の意味のgiveについてはgive (2) (70 ページ) を参照ください。

音や声、生理現象を発する

He gave a sigh.

彼はため息をついた

She gave a big smile.

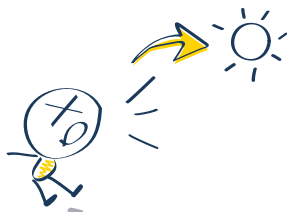
彼女は満面の笑みを浮かべた

She gave a loud laugh.

彼女は大笑いした

She gave a chuckle.

彼女はクスクス笑った



態度、動作をする

He gave me a push.

彼は私の背中を押した

He gave the door a push.

彼はドアを押した

She gave me a wave.

彼女は私に手を振った

Let's give it a try / a shot.

やってみよう



会などを催す、授業などをする・行う

I gave a lecture / a talk.

私は講義/講演をした

He gave a concert.

彼は演奏会を開いた

The singer gave a press conference.

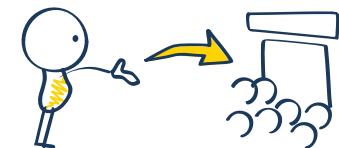
その歌手は記者会見をした

He gave a demonstration.

彼は実演をした

He gave a birthday party for his mother.

彼はお母さんのために誕生日会を行った(開いた)



成句

She gave birth to a boy. 彼女は男の子を産んだ

I'll give thought to the matter. そのことについて一考してみるよ

I'll give consideration to the situation. その状況を考慮しよう

make (1)

手を加えて形や状態にする

【自】進む、にする/なる 【他】を作る、を準備する、をする



無から、または材料に手を加えて結果として物事を存在する形や状態にする行為がmakeです。ですから、何かを生じさせる行為がmakeで表され、そういう場合に日本語では「する」と訳すと自然な場合があります。

物理現象を作り出す＝行為をする

I made a mistake.

誤りをした(間違いをした)

I made contact with him.

彼と接触した(連絡を取った)

I made a call.

電話をした

make a start / a turn

スタートする/曲がる

make a move

行動を起こす

make a change

変更する

make a decision / a choice

決断/選択をする



「作る」の意味のmakeについてはmake (2) (32 ページ) を参照ください。

事物を生じさせる、努力して為す

make an effort 努力する
make a reservation 予約する
make progress 進展する
make a contribution 貢献する
make a discovery 発見する
make a contract 契約する



提案、贈り物などをする、差し出す、ことばにして差し出す

make a suggestion 提案する
make an offer 申し出をする
make a toast 乾杯する
make an announcement 発表する
make a speech 演説をする
make a comment コメントする
make a statement 陳述する
make a commitment 確約する
make a promise 約束する



生じさせる、状態にする、なる

make a wish 願い事をする
make a note メモする
make a joke ジョークを飛ばす
make sure 確認する



成句

makeが「分離」「出どころ」を表す of (258 ページ参照) と組み合わせられると、対象を取り出してある状態にする意味になります。

He made use of his knowledge.

彼は自分の知識を利用した(取り出して use にする)

We make much of diversity.

私たちは多様性を重んじる

They make fun of me.

彼らは私をからかう

They make a fool of me.

彼らは私をばかにする



have (1)

持っている状態にする

【目】 — 【他】 を持っている、を受け取る / 経験する



haveはもちろん「持っている」が原義ですが（40 ページ）、have a …の形で（行為などを）「する」の意味になります。haveは「持っている」という「状態」のほか「持っている状態になる」という「動作」も表しますが、「する」の意味のhaveは後者です。「出す」意味のgiveやmakeの「する」と違ってhaveは「入れる」側なので自分に取り込んだり影響を受けたりするタイプの「する」を表します。

食べる、飲む

I have breakfast at seven.

7時に朝食をする（食べる）

I had fish for dinner.

夕食に魚を食べた

I have some coffee / tea.

コーヒー／紅茶を飲む



「食べる」の意味ではeatが食物を口に入れて飲み込むという直接的な表現であるのに対して、haveは少し上品な表現で、人以外にはeatを使います。

「持つ」の意味のhaveについてはhave (2)（40 ページ）を参照ください。

開く、催す

Let's have a barbecue / a party.

バーベキュー/パーティーをしよう

She will have a concert.

彼女はコンサートをする予定だ

have a game / a competition / an event

試合/競技会/イベントをする(開催する)



(一回のちょっとした) 行為をする*

have a look

見る、一見する

have a taste

味見する

have a bite

一口食べる

have a shower / a bath

シャワーを浴びる/入浴する

have a shave

髭剃りをする

have a walk / a swim / a ride

散歩する/ひと泳ぎする/車でひと走りする

have a chat / a conversation

おしゃべりする/会話する

have a drink

一杯やる

have a fight

ケンカをする

have a rest

ひと休みする



*この使い方では、take a と have a のどちらも使われることがありますが、米ではtake、英ではhaveが好まれるようです。

経験する、過ごす

He had an operation.

彼は手術をした(受けた)

